

# Mランドニュース Vol.173

## 丹波ささ山校 令和3年9月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹  
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 今月の言葉

本物の人間とは  
「言っていることと  
やっていることが  
一致している人」

鍵山秀三郎氏

### 夏の思い出

やわらぎ  
変チーム 前川 昂希



準備OK! 「さあ、そうじ、始めるよー!」

八月、愛知県の椋山女子大学から、元気いっぱい六名が入校されました。「どういうお友だちですか」と伺うと、「高校時代の卓球部で共に汗を流し、共に支えた仲間です」と、笑顔で話されました。

そんな皆さんから、Mランド滞在中の感想をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

私たちは、高校時代の部活動(卓球)がおなじみで、そのまま同じ系列の椋山女子大学に進学し、大学生になっただけでも、毎日楽しく過ごしています。

Mランドを選んだ理由は、長縄さんのお姉さんが約二年前にMランドを卒業して、「食事も美味しく、合宿がとても楽しかった」ということを聞いていたので、紹介してもらいました。



はき掃除のあとは、消毒作業

二週間の長期滞在。六人でいつも一緒にいますが、これだけの長期生活は初めてだったので、最初は不安もありました。でも、洗濯や部屋の掃除など、何気ない生活の中で、みんなで支え合い、協力することの大切さを学び、快適に合宿生活を送ることができました!

免許合宿も終盤に差し掛かったとき、これまでお世話になっていたMランドに、何らかの形で恩返しが出来ないかと、六人で話し合い、校内ボランティアに参加することを決めました。

いつも使わせてもらっている校舎をキレイにすることで、しんと感謝の気持ちが出てきて、朝から気持ちよく、達成感もあり、今日も一日頑張ろう!と思えました。



「ねえねえ、ここも汚れてるよ」

朝のボランティアに参加するために、みんなで早起きして、お揃いのユニフォームで校内ボランティアに参加できたことは、私たちにとても嬉しい思い出です。

入学して間もない頃は、初めての場所で、初めての運転、初めて出会う人、初めての共同生活で緊張や不安もたくさんありました。

でも、私たちに運転を丁寧に優しく教えてくださるインストラクターの皆さんをはじめ、Mランドスタッフの方々の温かい声かけ、毎日楽しいみなカフェミロの美味しいご飯、そして六人で協力しあった仲間、いろんな方々の支えがあったからこそ、仮免許も卒業試験も六人全員、一発合格できました!

### 【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にゴミ拾いをしましょう。

9/5(日) Mランド周辺  
AM8:00~9:00 担当:前川

9/26(日) Mランド周辺  
AM8:00~9:00 担当:中野

※当日はMランド集合です。(雨天中止)  
ご参加いただける方は井本までご連絡ください。



終了後、館内はさわやかな空気に満ちていました

ここで学んだこと、経験できたことは私たちにとても大きなプラスになりました!

Mランドを卒業しても六人仲良く、これからも過ごしていきます。

そして、安全運転もがんばります!

本当にありがとうございます。

全国でちからを揮え!

林美枝インストラクターの長男 夏綱君(中学三年生)と、カフエ「ミロ」のスタッフ数元 元亜佐美さんの長男 泰生君(中学三年生)が、このほど埼玉県で行われた、「全日本中学生ホッケー選手権大会」に、篠山・丹南中学合同男子ホッケー部が出場されました。

小学生から丹波篠山市内のクラブチームで練習を積み重ね、近年その実力は関西勢で、上位の成績をおさめるようになりました。

近畿大会準決勝では、優勝チームと一時拮抗するほどの実力を見せながらも、惜しくも三位という高成績で全国に臨まれます。



泰生君



夏綱君

「ガッツ!」はお母さんゆずり

林インストラクターと、数

元さん自身も、兵庫県ホッケークラブチームに所属、週末、地元のホッケーフィールドで、汗を流しています。

また、夏綱君の姉、洵菜さんもかつて、U16日本代表チームの選手として、海外でもプレーされるほどの、まさにホッケー一家。

お二人は、「是非、子どもの晴れ舞台へ」と、応援に向かう準備をされていましたが、「緊急事態宣言発令」により叶うことはできず、「ちからを出し切り、また一まわり大きくなって帰ってきてほしい」と、話していました。



「それ行け!!」(左)泰生君、(右)夏綱君

小さい頃、お母さんの手にひかれて、Mランドによく遊びに来ていたこの二人。私たちはこんな若者を、これからも応援してまいります。

おもいやり

「思いやりをもって…」などと、日頃、私たちはよく口にします。

私の「思いやり度」に大きな刺激を与えられたこととして、株式会社タニサケ 岡浩会長が一九九八年六月十七日に、岡山で「日本おしほり協同組合 総会」での記念講演録を、冊子として発刊された、「全社員が嬉々として入社する人生道場を目差して」より、「怒」の一節のうち、前段・後段と来月にわたりご紹介します。

論語の中に出ておりました。一生涯の中で、ただ一言で行うことと云えば、孔子先生が「怒(思いやり)であると言われました。自分が人からされたくないことは、人にしないということであります。会社での出来事でありましたが、給食会社のお昼の弁当の中にウジ虫が入ってありました。担当者が対応しました。即座に経営者を呼びつけて、始末書を出せといいました。私はたまたま出張中でありまして、帰ってきて

この報告を聞いてびっくりしました。そして、すぐにその給食会社にまいりました。経営者を探したら、たまたま風邪か何かで、布団の中にふせてみえました。その枕元へ行って、私はおわびしました。「昨日の件は事故であります。私どもが始末書をくれと言ったのは、とてもないことです。お許しください」と言って、おわびしました。そしたら、寝ていた経営者は、あふれる涙を出して「悪かった」と言ってくれたんです。

その涙を見て、私はすぐに会社へ帰りました。そしてみんなを集めて「今日の弁当は頼むから昨日と同じようにとってほしい」ということをお願いしました。幸いにも同じ量の注文をすることができました。

会社はカッパよく、地球に優しく」と言っています。でも、もっと大切にしないといけないのは、弱い人に対する優しい思いやりだと思っております。みなさんにここでお願いかけたいのは「怒って効きますか」ということであります。(後段・来月につづく)

いかがでしょう。昨今トラブルが起これば、やれ「責任者を出せ」、やれ「どうしてくれるんだ」と、こんなようすの社会。

この冊子を最初に読ませてもらったとき、「なんと己の怒の小さきことか」と、気付かされました。来月、後段も是非ご期待ください。

今月のありがとうカード

インストラクターの皆さまへ

この度は、二週間という短い間でしたが、お世話になりありがとうございました。初めはこんな自分でも大丈夫かな…と不安な気持ちでいっぱいでしたが、インストラクターの方々の温かい愛のあるご指導のおかげで、楽しみながら学んでいる自分になりました。

相手の事を思いやる気持ちや、やわらぎの心で何事にも取り組みます。Mランドで過ごした二週間は私の人生の財産です。ありがとうございました。 遠藤 観奈 様

杜のコース

この八月、梅雨が逆戻りしたような天候が続きましたが、コースの木々はそのエネルギーを発するように、日々枝葉を成長させます。

成長の早い木、のんびりと成長する木。なにやら私たちとおなじですね。「人が見てきれいな剪定よりも、木がもつ力を感じる手入れを」と、故小河二郎前会長が言われていました。それらの木々は今もなお成長し続けます。



朝、「おっ、また大きくなったな」とつぶやき

編集後記

目の前の落ちていたゴミを拾う、相手の立場になって「少し待ってあげよう」、今、人々の心のゆとりが薄れていく中で、「人に喜ばれる生き方」がどれだけ尊いことかを知らされます。「もし人に愛の心がなければただの動物であり、愚痴と争いの存在でしかない」という、故小河二郎前会長のこゝろが思い出されます。(徹)